

遅刻の罰は全裸

山岸愛佳は高校一年生の女の子で、クラスで人気のある可愛い女の子だった。彼女は小柄な身体とキュートな顔立ちで、男子たちの人気の的だった。

ある朝、愛佳はどうしても学校に遅刻してしまった。彼女の学校では、遅刻した者は教室の前に出て、全裸になるという厳しい決まりがあった。愛佳はその恐怖から逃れる道が見つからず、教室前で立ちすくんだ。

「山岸愛佳、遅刻したのだから、決まり通りにしなさい。全裸になるのです」と、冷たく厳しい声で教師が命じた。

その瞬間愛佳は、「やだ、やだ！ やめてください！」と叫びながら、教師の服の裾を掴んだ。彼女の声は絶望と怒りに震えていた。「どうしてこんなひどいことを...」と、涙を流しながら抗議した。しかし、教師は冷徹な表情を崩さず、「決まりだから」と一言。

愛佳は全裸になることを告げられた瞬間、恐怖と羞恥心が一気に襲ってきた。一部の男子は、彼女が裸になることを聞いて、興奮を隠しきれない様子で、「これマジかよ...」と小声で呟いた。特に密かに愛佳に想いを寄せていた男子は、「こんなことになってしまうなんて...」と心の中で葛藤していたが、彼女の裸体を見られる喜びも感じていた。

「やだ、やだ...」と泣きながら、愛佳はブレザーのボタンを一つ一つ外し始めた。彼女の心は恐怖と羞恥心で満たされ、視線を下げた。ブレザーを脱ぐと、彼女の細い肩が露わになり、男子たちの視線が集まった。「見ないで...」と呟きながら、彼女はブラウスを脱ぎ始めた。ボタンを外す手が震え、何度も失敗した。男子たちはその仕草を凝視し、「愛佳かわいい...」と小さく呟いた。その声には愛佳の幼さに惹かれる興奮が含まれていた。

そこで一人の女子、正義感の強い村井美香が、「みんな、見ないであげてよ...」と小さな声で注意した。しかし、男子たちはその声を

無視し、視線を逸らさずに愛佳を見つめていた。

ブラウスが脱がれると、彼女の小さなおっぱいがブラジャー越しに見え、男子たちの興奮がさらに高まった。「どうしてこんな…」と愛佳は小さく泣きながら、ブラジャーのストラップを肩からずらした。彼女はその動作に戸惑い、ストラップを落とすのが遅れた。男子たちは「いよいよ見れるぞ、愛佳のおっぱい…」と期待感を隠せず、彼女の小さなおっぱいが見られる瞬間を待ちわびていた。ブラジャーのフックを外す時、彼女の手が震え、何度も失敗した。ようやくフックが外れると、ブラジャーが外れて、彼女の小さな乳首が冷気に反応して硬くなり、男子たちからは「うわ、ほんとに貧乳…」と感嘆の声が上がった。愛佳のおっぱいは微かな膨らみを持ちながらも、ほとんど動かず、その微かな揺れが彼女の羞恥心を強調した。「見ないで…」と涙を流しながら、自分の胸が見られる羞恥心に打ち震えた。

その羞恥心は彼女の顔を真っ赤に染め、目には涙が浮かんでいた。

パンツを脱ぐ最後の瞬間、愛佳は一步後ずさり、「もうやだ...」と小さく呟き、抵抗を試みた。しかし、教師の厳しい視線に押され、ゆっくりとパンツを下ろし始めた。彼女はパンツのゴムを指で引っ掛け、まるで時間を止めたいかのように動きが遅かった。パンツが股間から滑り落ちると、彼女の性器が露わになり、その幼さと無垢さが男子たちの興奮を一気に高めた。愛佳の陰毛はまだ少なく、幼さが強調されていた。愛佳はそれを見て、「見ないで、やめて...」と泣き叫んだ